

平成 18 年 2 月 16 日

## 文化・芸術創造・情報発信の拠点づくりへ発進！

### ～東池袋交流施設（仮称）・新中央図書館～

本日 2 月 16 日（木）、平成 18 年第一回豊島区議会定例会議員協議会において、東池袋四丁目再開発ビル内（東池袋四丁目 4 番地、業務棟 15 階建）に整備中の「東池袋交流施設（仮称）」、「新中央図書館」の管理の概要を報告した。副都心池袋の利便性の高い立地条件を活かし、新しい 2 つの施設が連携し文化・芸術創造・情報発信の拠点の形成をめざす。（別紙①～③：施設の概要）

交流施設は平成 19 年 9 月、新中央図書館は 19 年 7 月のオープンに向けて現在開設準備中である。

#### 【東池袋交流施設（仮称）】

客席 300 席の劇場と展示スペース等からなる 2 階（劇場部門）と、会議室、音楽・映像等の編集室などを備える 3 階（支援部門）からなる。文化・芸術創造・情報発信の拠点として、質の高い、優れた舞台芸術作品を鑑賞する機会を提供するとともに、にぎわいの創出とまちの活性化を図ることを基本方針にしている。区内の既存の文化施設との役割分担を考慮して、優れた舞台芸術を継続的に上演するだけでなく、文化・芸術の担い手の育成事業をはじめ、区民が気軽に集い、楽しめる事業を展開していく。

劇場の利用は、オリジナル作品の制作・上演や内外の良質な舞台芸術の公演などに年間約 100 日、学校や児童施設等と連携した「文化の担い手」育成のためのワークショップや講座に年間約 50 日、劇団・文化芸術団体や区民等の自主的な活動への施設提供に年間約 200 日を見込んでいる。

なお、施設の開設準備業務は、財団法人としま未来文化財団に委託する。

#### 【新中央図書館】

新中央図書館は 4・5 階の約 3,000 m<sup>2</sup>で、蔵書数は最大 25 万冊、オープン時には I C タグを装備した図書資料 20 万冊を揃える。中央部は吹抜け、4 階はビジネス支援にも対応できるレファレンスコーナー、一般書・雑誌のほか、児童や中高生向けの図書を置く。5 階は CD・DVD などの視聴覚資料のコーナーと、交流施設（仮称）と連携して演劇の情報などを提供し、文化情報発信の場となるよう文化・芸術の図書を充実させる予定。

新中央図書館の運営について「豊島区東池袋四丁目新中央図書館移転実施計画」（平成 15 年 11 月）に基づき、平成 17 年 12 月 22 日新中央図書館有識者懇話会（\*）からの豊島区立新中央図書館に対する提言を受けた。今年 1 月 12 日には、新中央図書館の文化施策等への助言を求めるために、図書館行政政策顧問を設置し、元「中央公論」編集長の粕谷一希（かずやかずき）氏が就任した。

提言によると、新中央図書館の運営のキーワードは「地域の文化情報発信の場」「課題解決型図書館」「効率的な図書館運営」の 3 つ。特に「地域の文化情報発信の場」については、“歴史文化”、“映画演劇文化”、“落語演芸文化”の 3 つの文化空間の創造が具体的に盛り込まれている。

午後 10 時までの開館時間は、公共図書館として 23 区最長、地下鉄東京メトロ東池袋駅から徒歩 5 分という立地条件の良さからも、多くの利用者が見込まれる。

\* 新中央図書館有識者懇話会提言者

元株式会社学習研究社 教養図書室長 水谷千尋（みづたにちひろ）氏、日本図書館協会事務局次長（元浦安図書館長）常世田良（とこよだりょう）氏、大正大学人間学部専任講師 今村成夫（いまむらしげお）氏

問合せ：文化デザイン課長・中央図書館長

## 東池袋交流施設・新中央図書館の管理運営について

## 東池袋交流施設（仮称）

## 1. 事業運営

基本方針 文化・芸術創造・情報発信の拠点として、質の高い、優れた舞台芸術作品を鑑賞する機会を提供するとともに、にぎわいの創出とまちの活性化を図る。

## (1) 事業運営の視点

- ・文化・芸術の創造・発信拠点をつくる
- ・文化・芸術の担い手を育成する
- ・池袋副都心のにぎわいを創出する
- ・区民が気軽に集い、楽しめる環境をつくる

## (2) 事業概要

副都心池袋の利便性の高い場所に立地している特性を生かし、文化創造・発信の拠点として、区の文化力向上をめざした事業を展開する。

区内の他の文化施設との役割分担を考慮しながら、より良質の舞台芸術にふれる機会を提供する。

	事業例
創造事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ オリジナル作品の制作・上演</li> <li>◆ 良質な舞台芸術の鑑賞公演               <ul style="list-style-type: none"> <li>・内外の優れた文化芸術団体や芸術家の招聘による公演</li> <li>・提携公演、共催公演</li> </ul> </li> </ul>
育成事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 舞台芸術に関する各種ワークショップ</li> <li>◆ ボランティアの育成・支援</li> <li>◆ アウトリーチ活動（学校、児童施設等と連携）</li> <li>◆ 中央図書館との連携事業</li> <li>◆ 情報発信事業等</li> </ul>
施設提供事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 劇団、文化芸術団体等の公演利用等への施設提供</li> <li>◆ 区民等の自主的な活動への施設提供</li> </ul>

## (3) 施設提供の基本的な考え方

- ① 文化芸術創造・発信拠点として、まちのにぎわいを創出し、地域コミュニティの活性化をめざす本施設の特性を生かすため、創造・育成事業など、自主事業での利用を優先しする。
- ② 施設提供にあたっては、優れた文化・芸術活動を誘導し、より質の高い活発な上演活動が展開されるよう、5日以上長期連続使用を推奨する。

## 2. 運営組織について

基本方針 柔軟性・効率性を考慮した運営を行うとともに、企画立案力、企画・制作コーディネート力、技術プランニング力などの専門的知識を有する運営組織とし、利用者の要望に応える。

- (1) 専門家の参画 専門的人材の配置のあり方について検討する。
- (2) 指定管理者による運営の導入
- (3) 区民参加組織 開かれた区民参加のための組織のあり方について検討を進める。
- (4) 開設準備 平成19年9月のオープンに向け、財団法人としま未来文化財団に業務等を委託して開設準備を進める。

## 3. 今後のスケジュール

平成18年 6月	施設の管理運営に関する基本的事項について報告（第2回定例会）
平成18年 9月	施設名称ならびにオープニング事業、自主事業等の概要について報告（第3回定例会）
平成18年11月	東池袋交流施設（仮称）設置条例案を上程（第4回定例会）
平成19年 1月	竣工
平成19年 9月	開設

## 4. 施設計画

## ■施設構成と諸室計画

2階 (劇場部門)	劇場	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 演劇を中心とした舞台芸術の創造・発信活動の場（ブラックボックスを基本とした空間）</li> <li>● 客席数約300席</li> <li>● 舞台は幅6間（10.8m）×奥行6間（10.8m）</li> </ul>	客席約250㎡ 舞台約200㎡
	展示スペース (ホワイエ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 劇場利用時にはロビー、ホワイエとして機能</li> <li>● 展示スペースとして単独利用も可</li> <li>● 上演後のパーティースペースとしても利用できる</li> </ul>	約300㎡
	調整室	● 舞台照明や音響等の操作、調整を行うスペース	約30㎡
	舞台備品庫	● 舞台大道具等の備品を収納する倉庫	約75㎡
	楽屋	● 出演者の控え室	約25㎡×2室 約70㎡×1室
3階 (支援部門)	大会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 70～80名程の会議等の集会機能</li> <li>● 部屋を分割し、小規模な会議室としても利用できる</li> </ul>	約180㎡
	会議室	● 20～30名程会議等の集会機能	約60㎡
	サポーター室	● ボランティア等が日常的に集まり、運営スタッフを補助するスペース	約45㎡
	音楽・映像編集室	● 舞台で使用する音源・音楽・映像の編集スペース	約12㎡×2室
	事務室	● 施設の運営スタッフの執務スペース	約130㎡

## 新中央図書館施設の概要

- ・所在地：豊島区東池袋四丁目4番地
- ・施設面積：約3,000㎡（再開発ビル業務棟 4～5階部分）
- ・開館時の蔵書数：約20万冊（最大蔵書数約25万冊）

4階 図書フロアー	総合カウンター、レファレンスデスク、一般図書書架、IT・ビジネス支援コーナー、新聞・雑誌コーナー、児童コーナー、閉架書庫	1,700㎡
5階 のフロアー	文化空間、一般図書書架、視聴覚コーナー、点字図書館、事務室	1,300㎡

## ～豊島区立新中央図書館に対する提言（新中央図書館有識者懇話会）について～

1. 提言日：平成 17 年 12 月 22 日（木）
2. 提言者：元(株)学習研究社 教養図書室長 水谷 千尋（みずたにちひろ）氏  
日本図書館協会事務局次長（元浦安図書館長） 常世田 良（とこよだりょう）氏  
大正大学人間学部専任講師 今村 成夫（いまむらしげお）氏

## 3. 新中央図書館のコンセプト

「豊島区東池袋四丁目地区新中央図書館移転実施計画」（平成 15 年 11 月）

- (1) 豊島区の情報センター (2) 進化した図書館 (3) 経営の重視  
実施計画の基本コンセプトを具体化し、補強するための 3 つのキーワード  
●地域の文化情報発信の場 ●課題解決型図書館●効率的な図書館運営

## 4. 地域文化情報発信の場

文化空間の創造	<p>豊島歴史文化空間・・・歴史資料と伝承、明治以降モダニズム文化人の業績紹介、著作図書資料、居住地地図の展示、文化講座</p> <p>豊島映画演劇文化空間・・・戦後の文芸坐、人世坐の上映作品資料。映画人作品、図書資料。上映セミナー。</p> <p>豊島落語演芸文化空間・・・落語資料を充実し、日本一の落語資料コレクションに。</p>
---------	---

## 5. 課題解決型図書館

25 万冊の蔵書を最大限活用し、レファレンスサービス（利用者の問合せや相談にのるサービス）に重点を置く。

## 6. 効率的な図書館運営

- (1) 効率化と質の確保（人材の確保）
- (2) 施設の開館時間
  - ・平日（火～金）開館時間 午前 10 時～午後 10 時（相談は 8 時まで）
  - ・土・日・祝日開館時間 午前 10 時～午後 6 時
- (3) IT 化とハイブリット化  
IC タグや、有料データベースを導入するとともに、IT に強い相談員を育成する

## ～図書館行政政策顧問の設置～

1. 目的 平成 19 年 7 月に開設予定の新中央図書館について適切な助言、意見等を求めるとともに、豊島区立図書館の振興施策など、有識者の立場から図書館行政に携わることを目的とする。
2. 職務内容 図書館の蔵書のあり方、図書館の文化政策発信の方策、他図書館行政
3. 就任年月日 平成 18 年 1 月 12 日
4. 図書館行政政策顧問 粕谷一希（かすやかずき）氏

## 略 歴

1930 年東京生まれ。1967 年より「中央公論」編集長を務め、1978 年同社を退社。1986 年、東京都文化振興会発行の季刊誌「東京人」創刊とともに、編集長に就任。現在、評論家、ジャパン・ジャーナル社長。著書に「中央公論社と私」（文藝春秋）、「河合栄治郎－闘う自由主義者とその系譜」（日本経済新聞社出版局）、「二十歳にして心朽ちたり」（新潮社）、「面白きことなき世を面白く－高杉晋作遊記」（新潮社）、「鎮魂 吉田満とその時代」（文春新書）など。豊島区基本構想審議会委員、豊島区文化政策懇話会委員 歴任。